

## 第 2 回北海道SDGs 推進懇談会における意見について

	ご意見の概要	意見に対する道の考え方
1	<p><b>「ビジョン」の必要性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道総合計画と同じ内容、同計画を前提・ベースとして考えるなら不要。</li> <li>策定するのであれば、SDGs の理念、要素を踏まえるべき。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「誰一人取り残さない(最も遅れているところ、脆弱な立場に置かれている人に手を伸ばすべき)」</li> <li>「経済、社会、環境の調和」</li> <li>「バックキャストイング」</li> <li>「人権ベース」</li> <li>「同時解決・統合的アプローチ」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs の推進に当たっては、その理念や意義について道民の皆様の理解が広がり、幅広い分野や地域で様々な取組が展開されることが重要。このため、道内の多様な主体が共有する「基本的な指針」となり、それぞれの取組を促進する「ガイドライン」となるビジョンを策定することとしており、その旨は、ビジョン原案の 1 の「(1) 策定の趣旨」、「(2) ビジョンの位置付け」に記載。</li> <li>「誰一人取り残さない」等といった SDGs の理念や意義などについては、原案の 1 の「(4) SDGs の概要等」、3 の「(1) めざす姿」に記載。</li> </ul>
2	<p><b>策定スケジュール</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現行スケジュールでは透明で多様な主体参加型の議論を十分に行えないことから、スケジュールを見直すべき。</li> <li>どうしても今年中に策定する必要があるのであれば、「ビジョン」の性格・内容・項目等について再検討すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015 年に国連で採択された SDGs の理念や意義について、道民の皆様の理解が広がり、幅広い分野や地域で様々な取組が展開されるよう、できるだけ早期にビジョンを策定する必要があると考え、年内を目途にビジョンを策定することとしており、その策定に当たっては、SDGs 推進懇談会での意見交換をはじめ、知事の附属機関である北海道総合開発委員会での議論、SDGs 推進ネットワークの会員や市町村、各種団体への意見照会、さらにはパブリックコメントなどを通じて、幅広くご意見を伺いながら検討していく考え。</li> <li>また、ビジョンの原案には、SDGs に関する道民の理解が広がり、幅広い分野や地域で様々な取組が展開されるよう、SDGs 推進に向けた基本的な考え方をはじめ、めざす姿や優先的に取り組む課題と対応方向、各主体に期待される取組例、推進手法などを記載。</li> </ul>
3	<p><b>策定プロセス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様なステークホルダーの関与が必須。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジョンの策定に当たっては、市町村や関係団体、SDGs 推進ネットワーク会員への意見照会を行うほか、パブリックコメントを通じて、道民</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見・情報収集、計画策定、事業立案・実施、評価、全てのプロセスにおいてジェンダーの視点を取り入れるとともに、脆弱な立場におかれている人々、特に先住民族（アイヌ民族）の参画を保障し、その視点を取り入れるべき。</li> <li>・ ステークホルダー毎のビジョン提案ワークショップを開催するなどして、できる限り多様なグループの意見を「ビジョン」に反映させること。</li> <li>・ 「透明で多様な主体参加型の議論」を十分に行わずに策定する場合には、「ビジョン」が不十分なプロセスで策定されたものであること、策定後は多様なステークホルダーの参画を得て随時更新していくことを明記すべき。</li> <li>・ また、基礎自治体や北海道全域のステークホルダーの意見をどのように反映させるのか明記すべき。</li> <li>・ 「官民一体」「地方創生」といった用語は本文脈では不適切。</li> </ul>	<p>の方々から広くご意見を伺うとともに、SDGs 推進懇談会をはじめ、各部・各振興局が開催する各種会議等の場の活用、さらには、地域で SDGs の活動に取り組んでいるの方々とも意見交換を行うなど、丁寧な策定手続きを進めてまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ジェンダー視点の主流化やアイヌの人たちなど「誰一人取り残さない」といった考えについては、ビジョン原案の 1 の「(4)SDGs の概要等」と 3 の「(1)めざす姿」に記載。</li> <li>○ ビジョンの策定に当たっては、市町村や関係団体、SDGs 推進ネットワーク会員への意見照会を行うほか、パブリックコメントを通じて、道民の方々から広くご意見を伺うとともに、SDGs 推進懇談会をはじめ、各部・各振興局が開催する各種会議等の場の活用、さらには、地域で SDGs の活動に取り組んでいるの方々とも意見交換を行うなど、丁寧な策定手続きを進めてまいります。</li> <li>○ ビジョンは、策定後においては、各地域で説明会を開催するなど、ビジョンの周知を図るとともに、様々な機会を通じて、ビジョンをはじめ、本道における SDGs 推進についてご意見を伺い、必要に応じて見直しを行うなど、柔軟な対応に努めることとし、その旨はビジョン原案の 4 の「(3)推進管理」に記載。</li> <li>○ 「官民一体」については、ビジョン原案では公的セクターと民間セクターの垣根を越えて連携していく旨を、ビジョン原案 1 の「(1)策定の趣旨」に記載。 また、「地方創生」については、国の創生総合戦略において、SDGs の推進は、地方創生に資するものとしていることを踏まえ、ビジョン原案では、SDGs の推進に期待される効果の一つに「地域創生の推進」として、ビジョン原案 1 の「(4)SDGs の概要等」に記載。</li> </ul>
--	---

4	<p><b>「ビジョン」の名称</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2030年を目標年とした場合「推進」している余裕はなく、「達成」を目指すべき。名称からも「推進」を削除、あるいは「達成ビジョン」へと変更すべき。</li> <li>・ 策定しようとしているものは「めざすべき姿=ビジョン」なのか、SDGs達成のための「推進方策」なのか、位置づけの明確化が必要で、それに応じて名前も検討すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ビジョンの名称については、北海道全体でSDGsの達成に向けた取組を推進していくためのビジョンであることを表すため、「(仮称)北海道SDGs推進ビジョン」としている。なお、「SDGsの達成に向けた取組を推進すること」を「SDGsの推進」と表すことを記載。</li> <li>○ このビジョンにおいては、世界共通の目標であるSDGsについて、北海道全体で取組を積極的に推進していくため、本道の実情に即して、2030年のあるべき姿を描き、その実現に向けた取組の方向性を道民の皆様と共有する「基本的な指針」であり、多様な主体の取組を促進する「ガイドライン」として位置付けている。</li> </ul>
5	<p><b>「ビジョン」の役割・性格</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGsの核となる要素を取り入れるべき。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「誰一人取り残さない(最も遅れているところ、脆弱な立場に置かれている人に手を伸ばすべき)」</li> <li>➢ 「経済、社会、環境の調和」</li> <li>➢ 「バックキャストイング」</li> <li>➢ 「人権ベース」</li> <li>➢ 「同時解決・統合的アプローチ」</li> </ul> </li> <li>・ 現行の策定プロセス・スケジュールでは「道内の多様なステークホルダーが互いに共有する基本的な指針」とはなり得ない。</li> <li>・ そもそも策定しようとしているものは「めざすべき姿=ビジョン」なのか、SDGs達成のための「推進方策」なのか、位置づけの明確化が必要。「骨子案」の構造そのものをもし変えられないとしても両者の書き分けは可能ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「誰一人取り残さない」等といったSDGsの理念や意義などについては、原案の1の「(4)SDGsの概要等」、3の「(1)めざす姿」に記載。</li> <li>○ SDGsの理念や意義について、道民の皆様の理解が広がり、幅広い分野や地域で様々な取組が展開されるよう、できるだけ早期にビジョンを策定する必要があると考え、年内を目途にビジョンを策定することとしている。その策定に当たっては、幅広くご意見を伺いながら、SDGsの趣旨や優先的に取り組む課題、参考となる取組例などをできるだけ分かりやすく示しながら、多様な主体の方々と取組の方向を共有できるものとなるよう検討していく考え。</li> <li>○ ビジョンは、北海道全体でSDGsの達成に向けた取組を推進していくためのビジョンであることを表すため、「(仮称)北海道SDGs推進ビジョン」としている。なお、ビジョン原案では「SDGsの達成に向けた取組を推進すること」を「SDGsの推進」と表すことを記載。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>SDGs</b> について全く知らない人々にまずは知ってもらうことが重要。わかりやすく伝え、自分のことと捉えてもらえるきっかけとなることが必要。0 から 1 にする取り組みを。</li> <li>・ 「4. ビジョンの推進（1）各ステークホルダーの取り組み」は、その策定プロセスに各ステークホルダーの十分な参画が保障されていない現状では削除すべき。むしろ、各ステークホルダーに自分自身の興味関心がどこにあるのか <b>SDGs</b> を基に整理していくことを促すような文言を追記すべき。</li> <li>・ 「ビジョン」達成に対する各主体の「責任」及び「変革すべき点」を明確にすべき。そのためには各主体の参画のもと実質的な議論が必要。</li> <li>・ 北海道がグローバルな目標に寄与すべき事項を明確にすべき。</li> <li>・ 北海道庁の各施策に <b>SDGs</b> の核となる要素を組み込んでいくことが必要。</li> <li>・ 基礎自治体の「参画型」<b>SDGs</b> 関連施策策定のための支援方策（技術・財政）を明記すべき。</li> <li>・ ジェンダーについては、ステークホルダーとしての「女性」だけでなく、<b>SDGs</b> 全体の横串となるものでもあるという認識・記載が必要。</li> </ul>	<p>また、ビジョンは、世界共通の目標である <b>SDGs</b> について、北海道全体で取組を積極的に推進していくため、本道の実情に即して 2030 年のあるべき姿を描き、その実現に向けた取組の方向性を道民の皆様と共有する「基本的な指針」であり、「多様な主体の取組を促進する「ガイドライン」と位置付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 道民生活や企業活動の中に <b>SDGs</b> を取り込んでいただけるよう、各主体の <b>SDGs</b> への様々なアプローチ手法については、1 の「(4) <b>SDGs</b> の概要等」に記載するとともに、優先課題の対応方向ごとに、今後の取り組みに向けて参考となる取組例などをビジョン原案 3 の「(2) 優先課題と対応方向」に記載。</li> <li>○ グローバルな目標への寄与については、多様な国際交流や国際協力に取り組むこととし、その旨はビジョン原案 3 の「(2) 優先課題と対応方向」に記載。</li> <li>○ 道の各施策への反映については、各種計画等の策定や改訂に当たりビジョンの内容や <b>SDGs</b> の要素の反映に努めることとし、その旨はビジョン原案の 4 の「(2) 推進手法」に記載。</li> <li>○ ネットワーク組織の活動などを通じて、市町村との連携を強めるほか、意見交換の場づくりや取組を支援する仕組みを検討していく考え。</li> <li>○ ジェンダーの視点等については、ビジョン原案の 1 の「(4) <b>SDGs</b> の概要等」と 3 の「(1) めざす姿」に記載。</li> </ul>
---	---

6	<p><b>ステークホルダー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「誰一人取り残さない」ために、国連の「マイジャングループ・その他のステークホルダー」をベースとし、北海道において特に配慮すべきグループ、脆弱な立場に置かれているグループをステークホルダーとして明記すべき。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 農村・農業者</li> <li>➢ 先住民族</li> <li>➢ 行政（基礎自治体）</li> <li>➢ 科学コミュニティ</li> <li>➢ 子ども・若者</li> <li>➢ 女性 等</li> </ul> </li> <li>・ 多様なステークホルダーとの連携・協働（意見交換、政策協議、計画策定、事業立案・実施、評価等全てのプロセスにおいて）の方策について具体的に明記すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ビジョン原案では、「ステークホルダー」といった表現については、道民の皆様にとって分かりやすいものとなるよう「主体」と表記。</li> <li>○ 「誰一人取り残さない」等といったSDGsの理念や意義などについては、ビジョン原案の1の「(4)SDGsの概要等」、3の「(1)めざす姿」に記載。</li> <li>○ 多様な主体との連携・協働については、ビジョン原案4の「(2)推進手法」、「(3)推進管理」に記載。</li> </ul>
7	<p><b>優先課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「めざす姿=ビジョン」を「世界の中で輝き続ける北海道」とすることは2030アジェンダの理念と合致しない。本来の意味での「ビジョン」については、2030アジェンダの「私たちのビジョン」をベースとして今後多様なステークホルダーと協働しつつ策定していくべき。そのためには十分かつ広範な議論が必要。今もしキャッチフレーズが必要であれば「誰一人取り残されない北海道」といったものではないか。</li> <li>・ 解決すべき課題の根底原因を探り、それを優先課題とすべき。</li> <li>・ 過去・現在・未来における課題を直視し、脆弱な立場に置かれている人々を優先的に取り上げるべき。</li> <li>・ SDGsの17項目毎に北海道の抱えている課題を抽出・整理すべき</li> <li>・ 恣意的に設定した「優先課題」にSDGsを紐付ける様態では目標間の繋がり・統合的アプローチが明確にならない。そもそも「優先課題」の設定は必要なのか。</li> <li>・ 「世界に誇れる北海道の価値と強み」項目は不要。むしろ「弱み」について正しく分析、認識すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ビジョン原案では、SDGs推進に当たっての「めざす姿」について、本道ならではの価値と強みを活かして、SDGsの推進に積極的に取り組むことによって、「世界の中の北海道」としての存在感を高めながら、誰一人取り残さない、将来にわたって安心して心豊かに住み続けることができる地域社会を形成していくといった観点から「世界の中で輝きつづける北海道」としたところ。</li> <li>○ 優先課題については、「めざす姿」の実現に向け、多様な主体が、本道の課題や価値・強みなどをSDGsと関連付けながら、取り組む課題を共有することが重要と考え、SDGsのゴールやターゲット、さらには、北海道の課題や強みなどを踏まえ、SDGsの推進に当たって優先的に取り組む課題を整理し、ビジョン原案3の「(2)優先課題と対応方向」に記載。</li> <li>○ 「価値や強み」については、本道ならではの価値と強みを活かしSDGsの推進に積極的に取り組むことにより、「世界の中の北海道」としての存</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「北海道の強み」についても「弱み」と合わせて検討すべき。</li> <li>・ 「強み」を伸ばすよりも専門家や実践している人たちが把握しているデータ・知見を駆使して「取り残されている存在」を把握し、「最も遅れているところ」への対処こそが優先課題であるべき。</li> <li>・ 必要なのは「持続可能な経済成長」ではなく「持続可能な経済」ではないのか。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ステークホルダーごとにSDGsの目標との関連性を示すことが有効ではないか。「めざす姿」の実現のために自分自身の興味関心がどこにあるのかSDGsを基に整理していくことを促すような文言を追記すべき。</li> </ul>	<p>在感を高めながら、誰一人取り残さない、将来にわたって安心して心豊かに住み続けることができる地域社会を形成していくといった考えから、ビジョン原案2の「(2)世界に誇れる北海道の価値と強み」に記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経済成長については、SDGsのゴール8「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する」を踏まえ、優先的に取り組む課題の一つとして、ビジョン原案2の「(2)優先課題と対応方向」に、「北海道の価値を活かした持続可能な経済成長」として記載。</li> <li>○ 各主体が様々な取組を進めていくための対応方向や今後の取組に向けて参考となる取組例をビジョン原案3の「(2)優先課題と対応方向」に記載。</li> </ul>
8	<p><b>「行動計画」の策定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ビジョン」達成のための戦略、行動計画を策定し、その達成に至るまで随時見直しを行っていくべき。</li> <li>・ 策定に当たっては、多様なステークホルダーの参画を得て協働することが必須（「ビジョン」策定プロセスの失敗を繰り返さない）。そうでなければ実効性が期待できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各主体それぞれがSDGsの達成に向けた計画づくりの手法などを記載したSDGsへの様々なアプローチ手法について、ビジョン原案の1の「(4)SDGsの概要」に記載。</li> <li>○ ビジョンの策定に当たっては、SDGs推進懇談会での意見交換をはじめ、知事の附属機関である北海道総合開発委員会での議論、SDGs推進ネットワークの会員や市町村、各種団体への意見照会、パブリックコメントなどを通じて、幅広くご意見を伺いながら検討していく考え。</li> <li>○ また、ビジョンの推進管理については、ビジョン原案4の「(3)推進管理」に、ネットワーク組織の活動などを通じて道内の様々な主体の取組状況を把握し、広く共有するとともに、道の取組については、政策評価を通じて共有し、ビジョンに設定した指標を用いて、進捗状況のフォローアップを行う旨などを、ビジョン原案4の「(3)推進管理」に記載。</li> </ul>

<p>9</p>	<p><b>進捗モニタリング・評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各ステークホルダーが継続的に情報を入手し、チェックできる体制を作ることが必要。</li> <li>・ 多様なステークホルダーと協働の上、2019年度末までに「ビジョン」における指標を策定し、その後の進捗管理を行う体制を構築すべき。</li> <li>・ 既存の道庁が用いている指標だけでは不十分。道庁以外の知見も活用すべき。</li> </ul> <p>指標の検討と平行して広く道民を対象として「ビジョン」の説明、意見徴収・意見交換を各市町村と連携しつつ行うべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 透明性・説明責任の観点からも専門性のある多種多様な視点による継続的なモニタリング・評価が行われる体制を作らすべき。</li> </ul> <p>SDGs 達成のためのネットワークとしては、道が立ち上げ募集を開始した「推進ネットワーク」と「RCE 北海道道央圏」との協働が重要。両者の役割分担、具体的な協働体制等について書き込むべき。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取組の目標や進捗状況が分かりやすいものとなるよう、ビジョン原案の3の「(2)優先課題と対応方向」の中で、対応方向ごとに「指標」を設定。</li> <li>○ 指標については、原則、次の考え方に沿って選定していますが、原案に示した指標以外で参考となるデータがある場合は、幅広く検討していく考え。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 経済社会の状況や道民の暮らしの状況を表すアウトカム指標</li> <li>② 都道府県順位の把握や全国平均値との比較ができる指標</li> <li>③ 原則、毎年または隔年で公表される指標</li> </ul> </li> <li>○ ビジョンの策定に当たっては、SDGs 推進懇談会での意見交換をはじめ、知事の附属機関である北海道総合開発委員会での議論、SDGs 推進ネットワークの会員や市町村、各種団体への意見照会、パブリックコメントなどを通じて、幅広くご意見を伺いながら検討していく考え。</li> <li>○ ビジョンの推進管理については、ビジョン原案4の「(3)推進管理」に、ネットワーク組織の活動などを通じて道内の様々な主体の取組状況を把握し、広く共有するとともに、道の取組については、政策評価を通じて共有し、ビジョンに設定した指標を用いて、進捗状況のフォローアップを行う旨などを、ビジョン原案4の「(3)推進管理」に記載。</li> <li>○ また、ビジョンについては、経済社会情勢の変化やSDGsに関する道内外の動向などを踏まえ、多様な主体の参画の下、幅広く意見を伺いながら必要に応じ見直す旨を、ビジョン原案の4の「(3)推進管理」に記載。</li> <li>○ 既に様々な取組を行っている団体等との連携・協働については、ビジョン原案4の「(2)推進手法」に記載。</li> </ul>
----------	---	---